

インターバンクの声（2017 年 7 月 7 日）

昨夜のロンドン市場序盤の円相場は、前日と同じように米金利の上昇から徐々にドル買いが優勢になり始めた。前日はニューヨーク市場の朝方に発表された米製造業受注が予想を下回る内容だったことでドルの上値が抑えられたが、昨日もオートマティック・データ・プロセッシング (ADP) 社の6月全米雇用統計の弱めの数字がドル買いを止めてしまう格好となった。

113 円を割りそうな水準までドルが売られた後、ISM 非製造業景況指数結果が予想よりも良かったことから再びドル買いになったものの、株価の値下がりや米金利の低下がドルの上値を重くしてしまった。

ADP 雇用統計の結果から、FRB の利上げペースが鈍化するだろうとの見方が裏付けられたとする声も上がっていたが、先月の ADP の数字が米労働省の発表する雇用統計と全く逆の結果だったことから、評価は今晚の雇用統計を確認してからとの見方がもっぱらだ。今晚の結果次第では 2 ヶ月ぶりの 114 円台乗せがあるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。